

令和5年度 第1回 第8期武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】 令和5年10月27日（金） 午後3時～5時

【場 所】 武蔵野クリーンセンター管理棟2階見学者ホール

【出席委員】 山谷修作（委員長）、田口誠（副委員長）、稲垣貴之、大塚省人、落合勝美、
（敬称略）加藤慎次郎、古林和佳子、長山楓、西上原節子、三原美菜子、村井寿夫、茂木勉

【事務局】 ごみ総合対策課長 ほか

【欠 席】 坂井健司、杉山日菜子

【傍 聴】 なし

【配布資料】

資料1 旧計画における令和4年度取組の実施状況報告について

資料2 令和4年度に発生した市指定有料ごみ処理袋の供給不足を踏まえた令和5年度の対応について

資料3 旧計画期間中の取組状況一覧

資料4 ごみニュースvol.31

資料5 むさしのエコボチラシ

参考資料 令和5年度版事業概要

参考資料 武蔵野市一般廃棄物処理基本計画【令和5年度～令和14年度】

1 開会

委員長が開会を宣言。

2 議題

（1）旧計画における令和4年度取組の実施状況報告について

【委員長】事務局に説明をお願いします。

【事務局】旧計画における令和4年度取組の実施状況報告についての説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【A委員】資料1の連携の推進で、市内一斉清掃について要望がある。昨年の市内一斉清掃のときに、落ち葉の扱いに関するアナウンスが不十分だと感じた。今年度実施の前に、落ち葉の扱いに関するアナウンスをしていただきたい。

【委員長】事務局の回答をお願いします。

【事務局】確認して後ほど回答する。

【F委員】ごみニュースはクリーンむさしのを推進する会で全戸配布を請け負っており、話題になった。今回はとても斬新であり、少々ショッキングで、手に取った人が多いと思う。一方、どこから発行されているか分からなかった。武蔵野市からの大事なお知らせということを、アピールするとよりよい。内容もとても分かりやすかった。

【委員長】事務局の回答をお願いします。

【事務局】ごみニュースについては、たくさんご意見をいただけたらありがたいと思っている。エッセンスを伝えることを意識した。武蔵野市という表記も、より多くの市民に興味を持ってい

ただくための工夫だった。次回以降は、画像やイラストを増やしつつ、市として伝えるべきところは伝えられるような形にしたい。

【事務局】ごみニュースを例年と大きく変更したのは、市が出す刊行物を手に取って見ていただけなかった層にリーチするためだ。リチウムイオン電池の問題は長年の懸案である。市報では毎号、この啓発記事を出しているが、問題の解決にはいたっていない。関心のある方には見ていただける一方、関心のない方には、全戸配布しても、目に留めていただけない。そのため、今回は視覚的にインパクトの強いもの、F委員からショッキングという言葉があったが、そのようなコンセプトで作成した。今後は通常版を基本に、より効果的な広報を、試行錯誤していきたい。

【委員長】武蔵野市からの発行物ということは、紙面の表裏に書いてあるので、よく見れば、市の広報だと気づいていただける。

【事務局】ご家庭に配られたときのご意見や感想はあるか。

【D委員】すぐ目についた。怖い印象を受けた。中の紙面をみたら、危険・有害ごみに関する内容だった。今まで字が多かったので、とてもインパクトはあったと思う。

【I委員】確かにインパクトもあるが、日頃から市報で、充電電池は発火するおそれがあるということを書いている。その積み重ねがあつてごみニュースを見ると、逼迫した問題であることが伝わる。1枚のインパクトも大事だが、定期的に発信することもよいと思う。

【委員長】事態が深刻化しているから、インパクトのある広報が必要な状況ということだろう。ほかに何か意見・質問はあるか。

【D委員】2点ある。1点目は、資料1の集団回収のあり方検討についてだ。基本計画31ページの上に、「今後は二重体制の解消などに向けて整備を進めます」と記載されている。集団回収は、1団体当たりの回収量の少なさや、高齢化が問題であり、続けるかどうか議論になっていたと認識している。例えばマンションにおいて、コミュニティ意識がないまま、集団回収を行う団体がある一方で、地域の大切なところだから集団回収をしているという団体もある。その差を今後、市としてどのように埋めていくかが、これからの課題と考えている。2点目は、環境学習についてだ。私はごみに関する啓発活動を、幼稚園や小学生の頃から行うことが大事だと考えている。現在、副読本をやめている状況だが、子どもたちに分かるようなごみの行方に関する副読本を渡すことで、子どもたち同士の話し合いや、学校で発表するという機会も期待できる。夏休みの環境学習も一時的なものなので、つなげる学習としては、副読本に代わるものを考えたらどうか。

【委員長】事務局の回答をお願いします。

【事務局】はじめに集団回収について回答する。集団回収はごみの減量、ごみ出しを自分事としてとらえること、そしてリサイクルに回す、という3点の良さがある。コミュニティ意識の醸成という側面もあるとはいえ、コミュニティ意識なく、補助金目的で行っている現実もある。例えば大型マンションで集団回収に入っているにも関わらず、一部の住人が行政収集で出した場合、現在では収集せざるを得ない。そこに二重の手間がかかってしまっている。解決策の一つとして、対象の団体に対して、収集方法の一本化をお願いしたいが大変難しい。引き続き検討する。次に環境学習について回答する。小さい頃からごみの意識を持ってもらうことは重要だと考えている。夏休みごみ探検隊は、お子様たちに楽しい部分を含めて、ごみの問題に関心を持つきっかけづくりの場にしたいと考えて行っている。また、副読本については、改訂していないが、機会を捉えて配布している。副読本のありかたは今後の検討課題とさせていただきたい。

【委員長】 集団回収の最近の状況はいかがか。

【事務局】 ここ数年微減傾向である。コロナを境に何か大きな動きがあったかというのと、見受けられなかった。

【F委員】 集団回収について私も質問する。各団体、高齢化のため、工夫しながらやっている。また、団体規模に応じた補助金の差や、若年層を巻き込んだ工夫ができないか。検討を継続することのだが、検討するのも難しいと思う。また、海洋プラスチックの啓発のぼりがとても良い。問題を強調した感じで、訴えるものがあるのでとても良い。

【委員長】 事務局の回答をお願いします。

【事務局】 集団回収は課を超えて市の課題と認識している。第六期長期計画・調整計画における市議会との意見交換会で、議員の方から集団回収を見直す一方、事業そのものが地域コミュニティーを支えている制度にもなっているとご指摘いただいた。先ほど、補助金の話が古林委員からあったが、本来の集団回収というのは、ごみ減量が第1目標である。一方で、集団回収事業が地域に浸透してきて、コミュニティーの中でなくてはならないものになっている。ごみ減量施策とコミュニティーの醸成の2つが合わさっている状態のなかで、慎重な検討を進めていきたい。

【I委員】 資料1の4ページ目、6番、最終処分の(1)埋立処分量ゼロの維持・最終処分場の有効活用のところ、三多摩は一つなり交流事業を再開したとあるが、この交流事業というのはどのような事業なのか。

【事務局】 現在、日の出町に最終処分場を引き受けていただいているが、日の出町自体は最終処分場を利用していない。そのため日頃の感謝と、日の出町の方々と自治体や組合が交流を目的とした事業である。武蔵野市では、日の出町から20名程度招待して、クリーンセンターの見学と、市民文化会館でクラシックの公演を見ていただいて交流した。

【I委員】 武蔵野市民の方々も参加するのか。

【事務局】 自治体による。武蔵野市ではやっていない。

【委員長】 ほかに意見、質問はあるか。

【事務局】 A委員からの市内一斉清掃における落ち葉の取扱いについての質問に回答する。チラシには、落ち葉は拾わないと一文載せている。そのため一斉清掃では、落ち葉の回収はしない。

【委員長】 ほかに意見、質問はあるか。意見がないようなので次に進む。

【全委員】 異議なし。

(2) 令和4年度に発生した市指定有料ごみ処理袋の供給不足を踏まえた令和5年度の対応について

【委員長】 事務局に説明をお願いします。

【事務局】 令和4年度に発生した市指定有料ごみ処理袋の供給不足を踏まえた令和5年度の対応についての説明。

【A委員】 この件に関しては、高齢者が特に怒っていた。逆に普段ごみに関心を持たない人が、関心を持ったということと、この際、減量に向けて何かうまくいく方法を考えたい。ごみ袋作成の広域化や共有化などがひとつの方法である。買い占めがあってごみ袋がなくなったので、今回の事態をチャンスに変えるようなことも、ぜひ考えていただきたい。

【委員長】 ごみ袋作成の広域化という提案は新説だ。一部事務組合がごみの有料化や運営をして

いるという自治体もあり、組合の条例で詳細を決める。この場合、構成団体共通の指定袋を使う。一部事務組合でなく自治体共同というのは聞かない。手数料収入は、当の有料化を実施した市に入るため、近隣の自治体で共通の袋を作ると、そこが崩れてしまうおそれがある。事務局説明のとおり、製造業者や卸会社と密接に連絡を取り合うことは必要だ。

【K委員】12月に製造拠点を視察予定と書かれているが、現在、武蔵野市のごみ袋は国内で製造されているのか。他市には、メーカーの工場が中国にあるということもよく聞く。

【事務局】武蔵野市では、仕様書で国内の工場と指定している。自治体によって海外もあるが、海外の工場でもうまく入ってこない場合がある。武蔵野市では、国内の工場で、供給量は少なかったとはいえ、供給量は通常の8割から9割程度が保たれていた。最近はインフレの影響で、海外製造の優位性がなくなってきたと考えている。

【委員長】以前は海外で製造していたということがあった。ある指定袋の製造メーカーの工場見学で中部地方のほうに行ったことがある。製造は南アジアでしていたが鉛が検出されたことがあった。作成を依頼していた自治体は手を引いて、最終的にその会社は倒産した。そこから国内回帰が起こっている。

【委員長】ほかに意見、質問はあるか。意見がないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

3 報告事項

【委員長】事務局に説明をお願いします。

【事務局】議事要録については作成の上、委員の皆様にご確認いただくことをお願いします。第8期武蔵野市廃棄物に関する市民会議は、今回が最後の開会となる。委員の皆様には、特に武蔵野市一般廃棄物処理基本計画策定でご協力をいただいたこと感謝申し上げます。次期第9期は、内容の検討中である。

【委員長】議題は以上だが、発言されたいことがあればお願いしたい。

【B委員】弊社のごみ減量の取組として、食品リサイクルに力を入れている。以前の食品リサイクルは家畜のえさに入れていたが、2年前からバイオ発電切り替えている。結果、全体的な可燃ごみの排出量が前年よりもかなり減ってきており、非常に効果が出てきている。今年からごみ袋の色分けを始めた。今までは可燃ごみは半透明の袋、不燃ごみと食品リサイクルは青いビニール袋で分別していたが、店の従業員も収集業者も分かりにくい。そこで食品リサイクルを黄色の袋に切り替えた結果、従業員も収集業者も分かりやすくなり、処理が非常にうまくいっている。将来的には、全店食品リサイクルを導入して、武蔵野市や全ての自治体で可燃ごみ搬入量を減らすような取組を進めていく。

【C委員】弊社は、食品リサイクルは既に100%を超えている。ごみ量を減らすという観点から、今年度9月に吉祥寺店で完全消滅型の生ごみ処理機を導入した。現在、検証を行っているが予定では、年間総量に対して10%の生ごみを自社で処理する。通常の生ごみ処理機ですと、処理した後の残渣が出るところ、弊社の生ごみ処理機は完全消滅型である。収集業者が来る回数を減らすことにより、CO₂の削減を目指している。

それと同時に、今年度導入をする予定だが、廃プラスチックの中でもリサイクルしやすいプラスチックをさらに分けて、弊社全体で回収をして、リサイクルしやすい状況をつくる予定である。

武蔵野市からごみ減量をお願いされている。現状、吉祥寺店は、生ごみは100%リサイクル済み、それから産業廃棄物も、100%リサイクルできている。引き続き続けていきたい。

【委員長】委員の皆さんから何か質問はあるか。

【副委員長】食品ロス削減に関する計画において事業者との連携はあるか。

【事務局】武蔵野市では、一般廃棄物処理基本計画のなかに、食品ロス削減推進計画をつくった。可燃ごみの中で生ごみの占める割合が3割から5割と言われており、重量もあるので減らしたい。また水分が多いので、燃焼効率の点からも減らしたい。食品ロスは、全ての人がお茶わん1杯分を、捨てている報告もある。事業系の食品ロスは、令和4年4月、T A B E T Eというフードシェアリングアプリを運営している株式会社コークッキングと連携協定を結んだ。家庭系の食品ロスは、各家庭の意識に訴えかけるほかないと考えている。無駄なく購入する、うまく保存する、など啓発を行っていききたい。計画には、目標達成に向けた取組の具体例が載っている。市民の皆様に、行動を伴っていただくための、市からの働きかけが重要になってくる。

【委員長】スーパーマーケットのごみ収集で袋の色を変えたのは、非常にいい見える化の取組だ。大型の消滅型生ごみ処理機を導入によって、臭いの問題は出なかったか。

【C委員】生ごみ処理機は、24時間オート管理を機械自体がして、有害な菌を増やさない機械にしているので、臭いの問題はない。

【委員長】大型の機械だと密封されていると思うし、短時間で処理ができるのではないか。1台幾らか。

【C委員】大きさによるが、一番小さいものが50キログラムのタイプで、100万円の単位である。弊社では、24時間で100キログラムまで処理できる機械を入れている。

【委員長】自治体によっては、事業系のごみ処理機についても補助をしているところがある。武蔵野市の場合、補助対象は家庭だけか。

【事務局】平成20年度まで、生ごみ処理機に関して補助制度があったが終了している。クリーンむさしのを推進する会で、生ごみの処理機の事業をやっていただいている。

【F委員】昔はコンポスターが主流だったが、今は容器の中に生ごみと素材を入れて、最終的には植木鉢になる。プランターのようなものが流行っていて、3,000円から4,000円で買える。補助額は、3,000円を限度に半額で申請件数は多い。

【K委員】弊社では、プラスチック資源循環促進法の対応のために、能力増強と高度化を行う上で、一部第2工場の建て替えと、既存施設の能力増強を行っている。新工場が9月で完成した。これは、圧縮・梱包設備の能力の増強と、容器プラに加えて製品プラが処理できる施設を新たに設置して、試運転を始めた。翌年度から本格的に稼働できるよう準備している。令和6年度の指定法人の再処理施設への申請を上げ、検査も行われた。自治体は、ドラスティックに製品プラを始めることなく様子を見ている。体制を整えるのに時間がかかるし、弊社も第2工場を造るには、環境省や東京都の補助金を入れたり、施設の許可を取るのにも時間がかかった。このような準備に時間がかかっている印象だ。あと、製品プラと容器プラの組成割合が、稲城市が18%程度が製品プラだった。弊社が以前行った調査では、20%ぐらいが製品プラではないかというのは、大体的を射ている。

【委員長】環境省では製品プラを一括回収して、資源化の呼びかけをしているが、製品プラも受け入れて処理をする施設が整っていなければどうしようもない。事業者も設備投資をして、受入

れ体制を整えている。

【委員長】ほかに質問はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

5 閉会

【委員長】以上で本日のごみ市民会議を終了する。